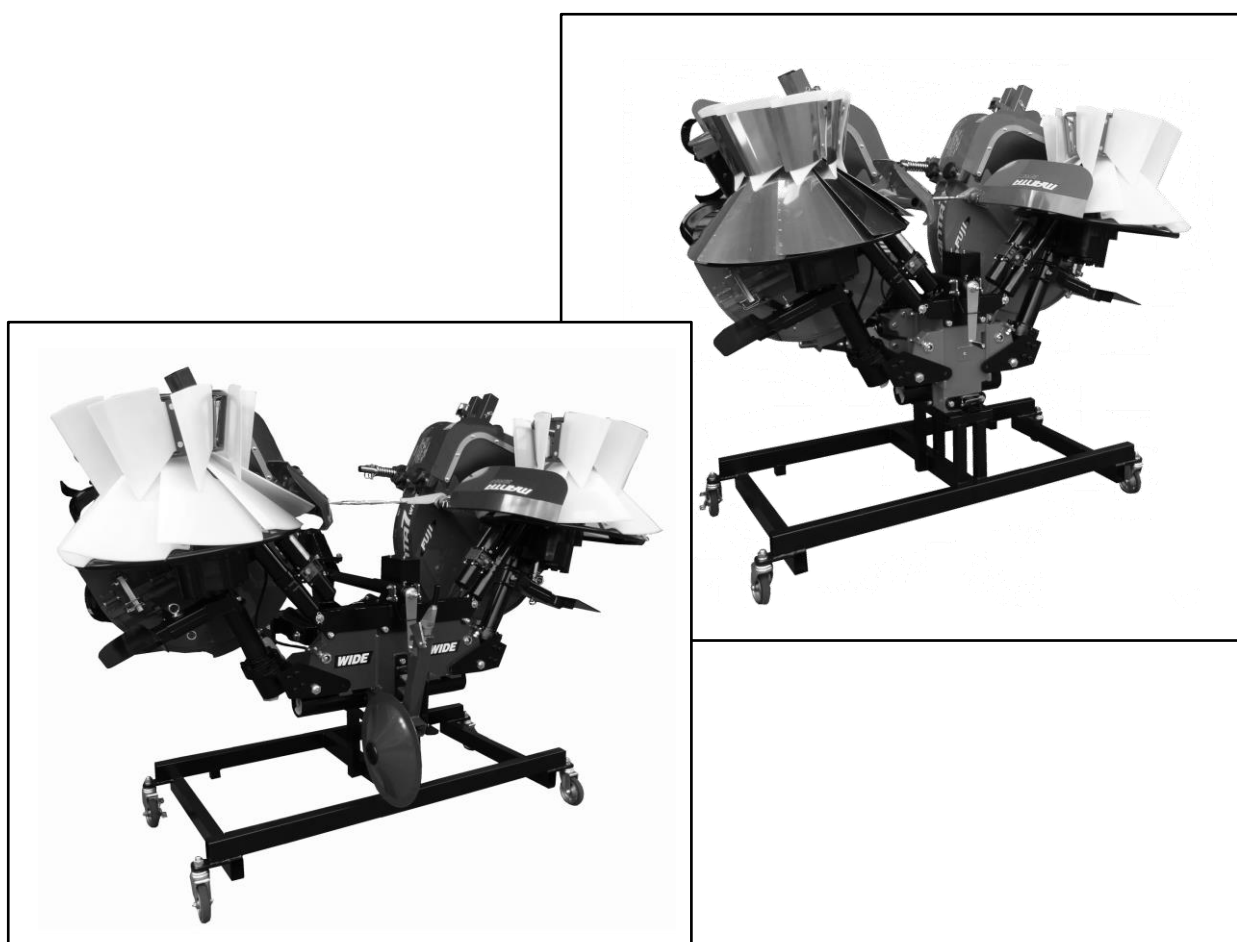


取扱説明書

ダブル畦塗機

MANTA7

マンタセブン (MANTA7WIDE/MANTA7)



ご使用前に必ずお読みください

株式会社 富士トレーラー製作所

2019年9月

はじめに

このたびは、ダブル畦塗機マンタセブンをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
この取扱説明書には、正しい取扱方法と安全操作方法について詳しく記載してあります。
畦塗機をご使用になる前に、本書の全ての項目をご熟読のうえ、よくご理解をいただき、安全に作業をおこなってください。お読みになったあとも、本書は大切に保管をしてください。

◎ 注意表示について

使用上、特に重要と考えられる注意事項について、下記のように表示しています。必ず
守り作業をしてください。



危険

注意事項を守らない場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



警告

注意事項を守らない場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



注意

注意事項を守らない場合、けがを負うおそれがあるものを示します。

◎ 本製品(ダブル畦塗機マンタ セブン)の使用目的

- 水田の畦塗りに使用し、使用目的以外の作業には決して使わないでください。
- 畦塗機は決められた適応馬力で設計しています。
適応馬力の範囲内で使用してください。範囲を超えての使用は故障の原因になります。
- 畦塗機は「標準3点リンク」「特殊3点リンク」で設計しています。他の規格では装着ができません。
- 畦塗機の改造は決しておこなわないでください。

目次

安全に作業をする前に	1	8. プレートの調整	12
主要各部の名称と働きについて	3	9. ワイヤーの調整	13
各部品組立	4	10. センター尾輪の調整(オプション)	13
1. ヒッチ金具の組立	4	11. アジャスターの調整	13
トラクターへの着脱の仕方	4	12. 安定板の調整	14
1. トラクター着脱の規格について	4	作業時の注意	14
2. 日農工標準／特殊3点オートヒッチの取付け手順	4	1. 作業状態ロックの確認	14
3. 日農工標準／特殊3点オートヒッチの取外し手順	5	2. クラッチ付きドライブシャフト(トルクリミッター)	14
4. 標準3点リンクの取付け手順	5	手入れと点検の仕方	15
5. 標準3点リンクの取外し手順	7	1. オイルの点検	15
6. 電動油圧シリンダの配線	7	2. グリスの点検	15
移動時の注意	8	3. スプレーグリスの点検	15
ほ場の条件	9	4. 水洗い	16
運転作業および畦塗機作業時の調整の仕方	9	5. 樹脂羽根の保管	16
1. 畦塗り作業位置および格納位置への調整	10	6. 消耗品について	16
2. トラクター各部調整	11	ワンポイントアドバイス	16
3. 畦高さの調整	11	1. 畦が固く締まらない	16
4. 進行方向に対しての前後・左右の水平調整	11	2. 畦上部の肩が締まらない	17
5. サイドシャッター		3. 畦が広がってしまう	17
サイドシャッター受け金具の調整	11	4. メインホッパー内で土がたまってトラクターが曲がる	17
6. ガイドプレートの調整	12	5. 電動油圧シリンダが動かない(電動折りたたみ装置)	17
7. 畦上面削り装置の調整	12	配線図	18
		キャスト取付け時の注意	18

【 安全に作業をする前に 】

本機をご使用になる前に、「取扱説明書」をよく読み注意事項を守り、安全に作業をしてください。

運転前の注意事項



1) こんなときは運転しない

病気のときは、運転しないでください。

飲酒時や気分がすぐれず集中できないときは、運転しないでください。

2) 作業時の服装

だぶついた服装での作業はしないでください。

腰タオル、首巻きタオル、はちまきはしないでください。

サンダルなど、脱げやすい靴ははかないでください。

ヘルメットを着用してください。

▲機械に巻き込まれたり、すべて転倒する原因になります。

3) 畦塗機を他人に貸すときは取扱いの説明をする

畦塗機を他人に貸すときは、操作方法を教え取扱説明書を必ず読むようにしてください。

▲誤った使い方をすると事故や機械の破損を招くおそれがあります。

4) トラクターに畦塗機を取り付ける前にはトラクターの取扱説明書を読む

トラクターに畦塗機を取り付ける前には、トラクターの取扱説明書を読み、畦塗機に適した操作方法を確認してから畦塗機を取り付けてください。

▲誤った使い方をすると事故や機械の破損を招くおそれがあります。

5) 重量バランスを確認して調整をする

トラクターに畦塗機を取り付けるときは、重量バランスを確認して、必要な場合はトラクターにバランスウェイトを取り付けてください。

6) はし板(アユミ板)は、強度・長さ・幅が十分余裕のあるものを使用する

積み込み、積み降ろしをするとき、ほ場で使用するとき、確実に

固定してから低速で行ってください。はし板(アユミ板)は、段差の4倍以上の長さのものを使用してください。

▲事故や機械の破損を招くおそれがあります。

7) 電動油圧シリンダの使い方

電動油圧シリンダは直流12V以外で使用しないでください。

火災・感電の原因になります。

運転前の注意事項



1) 畦塗機取付時には公道の走行は禁止

畦塗機取付時には公道の走行は禁止です。走行はしないでください。

必ず、畦塗機を取り外して走行してください。

▲道路運送車両法違反になります。事故を起こすおそれがあります。

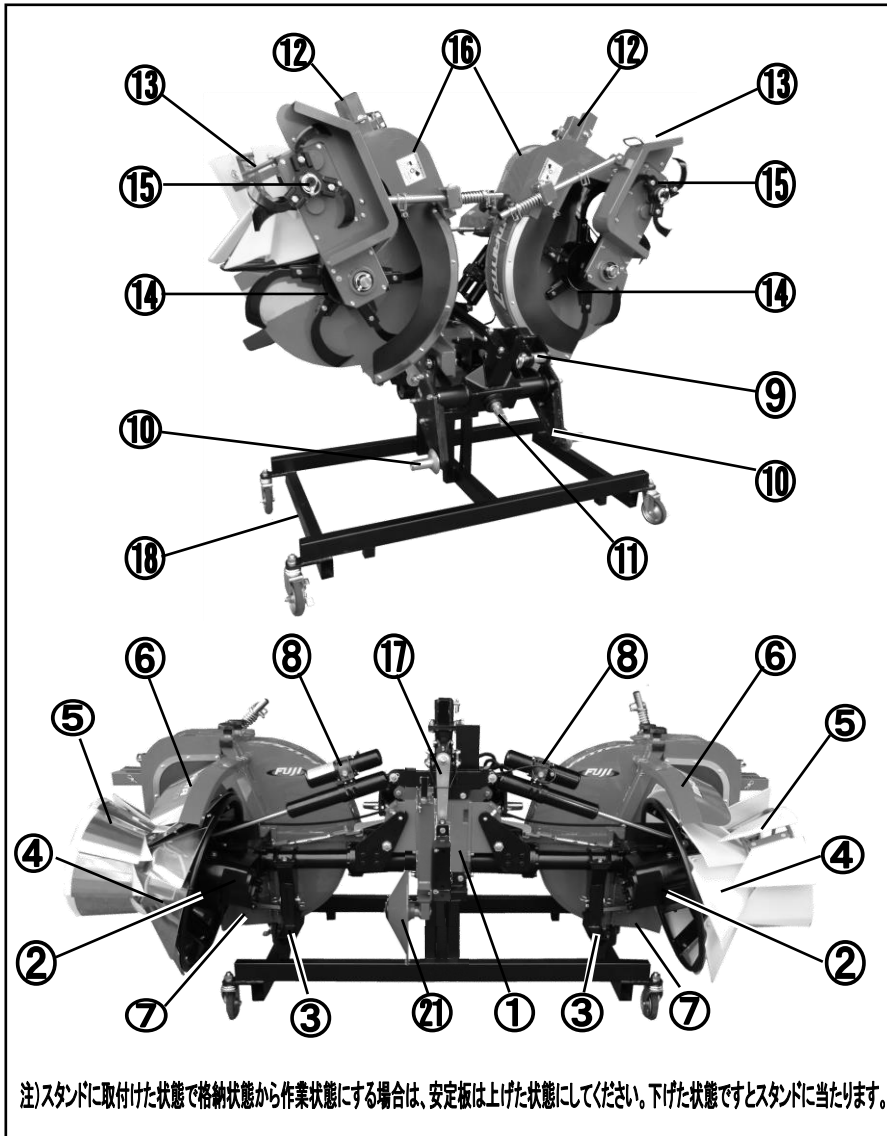
2) 畦塗機の改造は禁止

畦塗機の改造はしないでください。純正部品以外は取付けしないでください。

▲事故や機械の破損を招くおそれがあります。

点検・整備の注意事項  警告	1) 点検・整備・修理・掃除のときはトラクターのエンジンを停止する 点検・整備・修理・掃除をトラクターに取り付けている状態でおこなうときは、トラクターのエンジンを停止してください。 <u>▲機械に巻き込まれて、事故を起こすおそれがあります。</u>
点検・整備の注意事項  注意	1) 点検・整備をする 畦塗機を使用する前と後には点検・整備をしてください。 <u>▲機械の早期破損を招くおそれがあります。</u> 2) 点検・整備は平らで安定している場所でおこなう 交通の障害にならず安全で、機械が倒れたり、動いたりしない平らで安定している場所でおこなってください。 <u>▲機械に巻き込まれて、事故を起こすおそれがあります。</u> 3) 電動油圧シリンダの取り扱い 絶対に分解・修理・改造・調整はしないでください。 ・油が吹き出たり、予期せぬ動作をして、けがをするおそれがあります。 ・調整ネジを調節するとシリンダが急に伸縮し、作業機が落下するおそれがあります。 ・タンク内には可燃物である作動油が加圧されて入っているため、火災・爆発のおそれがあります。 ・シリンダ作動時、電動機は高温になっている場合があります、やけどするおそれがあります。
作業時の注意事項  警告	1) 畦塗機の着脱は平らで安定している場所でおこなう 畦塗機の着脱は平らで安定している場所でおこなってください。 2) トラクターと畦塗機の周辺に人を近づけない トラクターと畦塗機の周辺に人が入らないようにしてください。 <u>▲事故を起こすおそれがあります。</u> 3) 畦塗機の下にもぐったり、足をいれない 畦塗機の下にもぐったり、足をいれないでください。 <u>▲事故を起こすおそれがあります。</u> 4) 畦塗機に巻き付いた草やワラを取るときはエンジンを停止させる。 回転部分に巻き付いた草やワラを取るときは、トラクターのエンジンを停止させてから、作業をおこなってください。 <u>▲回転部に巻き込まれて、死亡事故やケガを負うおそれがあります。</u>
作業時の注意事項  注意	5) 畦塗機の調整はエンジンを停止しておこなう 畦塗機の調整をするときは、トラクターの駐車ブレーキをかけて、PTO変速レバーを中立にして、エンジンを停止してからおこなってください。 <u>▲事故を起こすおそれがあります。</u>

【 主要各部の名称と働きについて 】



① センターギアケース

PTO回転を減速します。

② サイドギアケース

側面ディスク/上面ドラムと
ロータリーを回転させます。

③ 安定板

畦塗機及びトラクターの直進性を
よくします。

④ 側面ディスク

畦法面を整形します。

⑤ 上面ドラム

畦上面を整形します。

⑥ ディスクガード

作業中の安全を高めます。

⑦ ガイドプレート

ホッパー内の土の量の調整ができます。

⑧ 電動油圧シリンダ

畦塗機の折りたたみに使用します。

⑨ ヒッチ金具(トップマスト)

⑩ ヒッチ金具(ローピンブラケット)

⑪ ヒッチ金具(PTOシャフト)

オートヒッチ方式、3点リンク直装方式、
各々で形状が違います。

⑫ シャッター受け金具

畦の上面幅に合わせて、広い場合は外に
出し、狭い場合は内に入れてください。

⑬ サイドシャッター

ロータリー爪で削られた土を、元畦にためる
働きをします。

⑭ ロータリー

元畦を削り取り、土を細かくします。

⑮ 畦上面削り装置

- 1) 元畦上面の草を削り取ります。
- 2) 元畦上面の凸凹をきれいに整えます。
- 3) 元畦のもり土のなじみが良くなります。

⑯ ホッパー

土を畦上面にためる働きをします。

⑰ アジャスターハンドル

土の量の調節ができます。

⑱ スタンド

⑲ クラッチ付ドライブシャフト (トルクリミッター)

作業中、石など障害物で一定以上の
力が掛かった場合に動力を切り、機械の
損傷を防ぐ働きをします。

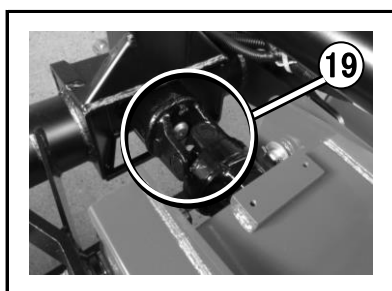
⑳ コントロールボックス

⑧電動シリンダをコントロールします。

㉑ センター尾輪

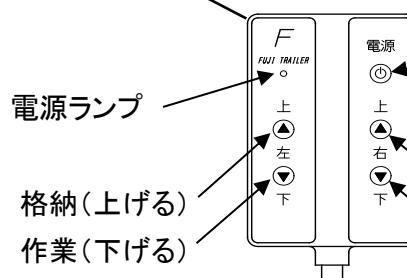
※MANTA7はオプション

畦塗機及びトラクターの直進性をよくします。



㉑

コントロールボックス ボタン説明



電源 ON/OFF

※安全のため 2~3秒
押し続けると電源は入りません。

【 各部品を組立て 】

各部品を組み込んでください

1. ヒッチ金具の組立

ヒッチ金具は、トラクターによって取付方が違います。取付図面を確認してください。

取付図面はヒッチ金具に同梱されています。

【 トラクターへの着脱の仕方 】

1. トラクター着脱の規格について

- ・ 日農工標準3点オートヒッチ
- ・ 日農工特殊3点オートヒッチ（MANTA7のみ）
- ・ 標準3点リンク

以上の規格で設計しています。他の規格では装着ができません。

! 注意

- ・ トラクター着脱の規格が合っているか、トラクターの取扱説明書を読んで確認してください。
畦塗機のヒッチ金具も規格によって違います。合わない場合は、取付けができなかったり、
畦塗機の破損の原因になります。

2. 日農工標準／特殊3点オートヒッチの取付け手順

! 警告

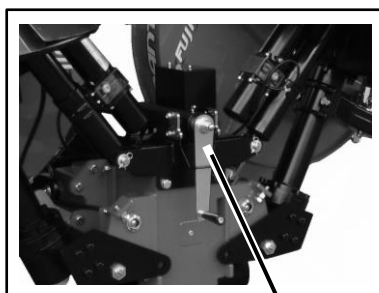
- ・ 畦塗機の取付けは平らで安定している場所でおこなってください。
- ・ トラクターと畦塗機の周辺に人が入らないようにしてください。
- ・ 畦塗機の下にもぐったり、足をいれないでください。

! 注意

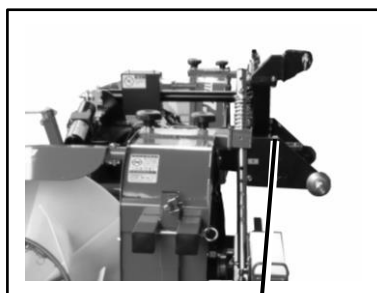
- ・ トラクターにより、自動昇降装置が付いている機種があります。必ずOFFにしてください。
- ・ 油圧レバーはゆっくり上げ、トラクターのフェンダーやキャビン等に接触しないか確認してください。接触のおそれがある場合、油圧上昇高さの規制をしてください。

1) 畦塗機の装着姿勢

- ・ 畦塗機のアジャスターハンドルを回し、装着部(ヒッチ金具)を前傾にしてください。



アジャスターハンドル



装着部(ヒッチ金具)

- 2) トラクター側ヒッチのロックを解除し、畦塗機ローアピンブラケットが脱着可能な状態にしてください。
- 3) トラクターをゆっくりバックさせながら、油圧レバーを下げ、トラクター側のトップフックを畦塗機のトップマストのピンの下にくぐらせてください。
- 4) 畦塗機ローアリンクブラケットが左右きちんとロックされている事を確認してください。
ローアリンクブラケットおよびPTOの補助シャフトが入らない場合は、トラクターの右側リフトロッドを伸縮させて、傾きを調整してください。

3. 日農工標準／特殊3点オートヒッチの取外し手順

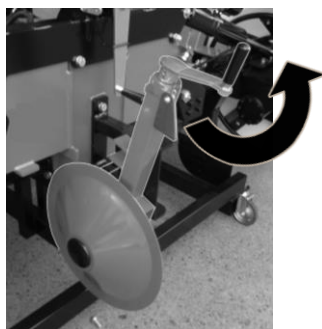
警告

- ・ 畦塗機の取外しは平らで安定している場所でおこなってください。
- ・ トラクターと畦塗機の周辺に人が入らないようにしてください。
- ・ 畦塗機の下にもぐったり、足をいれないでください。

注意

- ・ トラクターのPTO変速レバーを中立にし、取外してください。誤操作でPTO軸が回転し、事故になるおそれがあります。

- 1) 畦塗機のアジャスターハンドルを回し、装着部(ヒッチ金具)を前傾にしてください。
- 2) センター尾輪のハンドルを回転させ、尾輪が最大に上がった状態にしてください。



- 3) 畦塗機にスタンドを取付け、リンクピンで固定してください。
- 4) トラクター側ヒッチのロックを解除してください。
- 5) 畦塗機をゆっくり下げてください。
- 6) トラクター側ヒッチから畦塗機ローアピンブラケットが抜けて、トップマストのピン(畦塗機側)からトップフック(トラクター側)が外れるのを確認してから、ゆっくりとトラクターを前進させてください。
外れない場合は、装着部(ヒッチ金具)の前傾が適切か、トラクターヒッチが左右水平になっているか確認してやり直してください。

4. 標準3点リンクの取付け手順

警告

- ・ 畦塗機の取付けは平らで安定している場所でおこなってください。
- ・ トラクターと畦塗機の周辺に人が入らないようにしてください。
- ・ 畦塗機の下にもぐったり、足をいれないでください。

注意

- ・トラクターにより、自動昇降装置が付いている機種があります。必ずOFFにしてください。
- ・油圧レバーはゆっくり上げ、トラクターのフェンダーやキャビン等に接触しないか確認してください。接触のおそれがある場合、油圧上昇高さの規制をしてください。

1) トラクターのロアーリンクの位置を作業機位置にしてください。

2) 畦塗機のロアーピンブラケットのピンに、トラクターのロアーリンクを取付けてください。

リフトレベルリングの無い方から取付けてください。

3) トラクターの機種によってトップリンクホルダーの幅が広い場合があります。

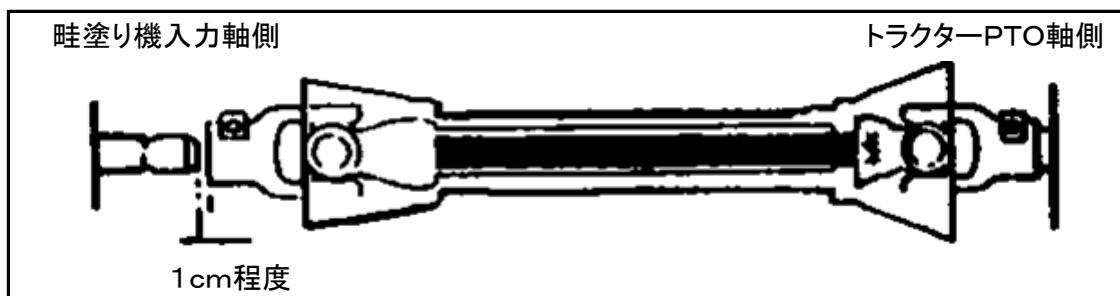
そのときは、畦塗機の付属部品のトップカラーを、1個または2個入れてガタ付きを調整してください。

4) プロペラジョイントの取付け

トラクターPTO軸と畦塗機の入力軸にプロペラジョイントを取付けてください。

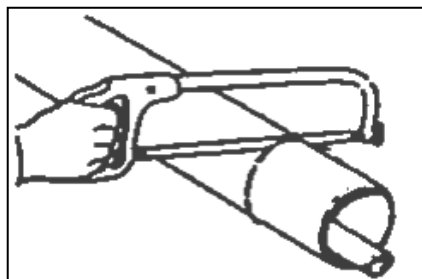
プロペラジョイントを一番縮めた状態で、畦塗機側の入力軸先端とプロペラジョイントの先端との間に1cm程度の余裕を見てください。これ以上プロペラジョイントが長い場合は長い分を切断してください。

プロペラジョイントのノックピンがトラクター側、畦塗機側ともに正規にロックされているか、確認してください。

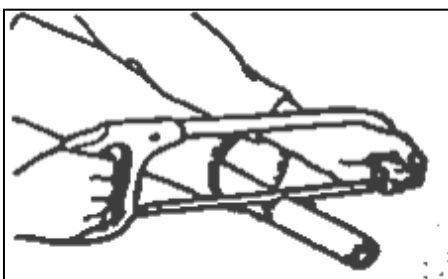


プロペラジョイントの切断方法

- ① プラスチックカバーを長い分だけオス・メス両方切り取ります。
- ② 切り取ったプラスチックカバーと同じ寸法だけシャフトの先端から切断します。
- ③ 切り口をヤスリ等でなめらかに仕上げ、シャフトにグリスを塗りオス・メスを組み合わせます。



プラスチックケースの切断



シャフトの切断

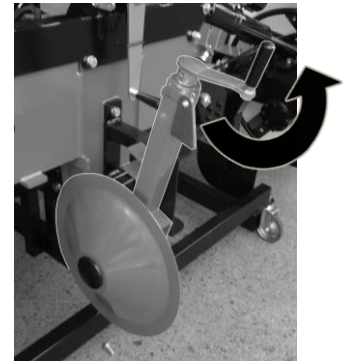
5. 標準3点リンクの取外し手順

警告

- ・ 畦塗機の取外しは平らで安定している場所でおこなってください。
- ・ トラクターと畦塗機の周辺に人が入らないようにしてください。
- ・ 畦塗機の下にもぐったり、足をいれないでください。

注意

- ・ トラクターのPTO変速レバーを中立にし、取外してください。誤操作でPTO軸が回転し、事故になるおそれがあります。
 - 1) 畦塗機にスタンドを取付け、リンクピンで固定してください。
 - 2) センター尾輪のハンドルを回転させ、尾輪が最大に上がった状態にしてください。
 - 3) 畦塗機をゆっくり下げてください。
 - 4) トラクターのPTO軸からプロペラジョイントを外し、つぎに畦塗機の入力軸から外します。
 - 5) 畦塗機のトップマストから、トップリンクを外します。外れないときは、トップリンクの長さを調節してください。
 - 6) トラクターのロアーリンクを取り外してください。リフトレベルリングのある方から取外してください。
 - 7) トラクターをゆっくりと、まっすぐ前進させてください。



2) センター尾輪

6. 電動油圧シリンダの配線

警告

- ・ 電動油圧シリンダ動作中は、絶対に触れないでください。けがをするおそれがあります。
- ・ 火気または引火性の物の近くで使用しないでください。火災の原因になります。
- ・ ケーブルに傷をつけたたり、無理な力を加えたり、ひっぱたりしないでください。感電や、故障の原因になります。
- ・ 水につけたり、水をかけたりしないでください。感電や、事故の原因になります。
- ・ 直流12V以外で使用しないでください。火災や、感電の原因になります。
- ・ 差込カプラは根本まで確実に差し込んでください。火災や、感電、事故の原因になります。

注意

- ・ 電動油圧シリンダーは、連続運転仕様になっていません。デューティサイクル25%以内（定格圧力使用、30秒間単位で、運転30秒、休止90秒）を目安に使用してください。
- ・ 許容デューティサイクルを超えて使用すると、直流モーターに内蔵されたサーキットブレーカーが働き、動かなくなります。直流モーターが冷却されるとサーキットブレーカーは自動的に復帰し、再使用が可能になります。
- ・ サーキットブレーカーがひんぱんに作動するような使い方はしないでください。
- ・ 作業終了後は、電源までの配線は取り外してください。

- 1) 電源コード(バッテリーコード)を、畦塗機からトラクターのバッテリーまで、配線してください。
(+)プラス、(-)マイナス を間違わないで下さい。逆に取付けると、故障する原因になる事があります。
※ヒューズが付いている方が(+)プラスです。
※電源コードには、50Aのヒューズが付いています。
- 2) コントロールボックスを、畦塗機からトラクター運転席まで、配線してください。
- 3) 格納時、カプラ端子の接点不良を防止する為、コントロールボックスの配線カプラ、畦塗機側、スイッチ側互いのカプラを接続して格納してください。(図a)

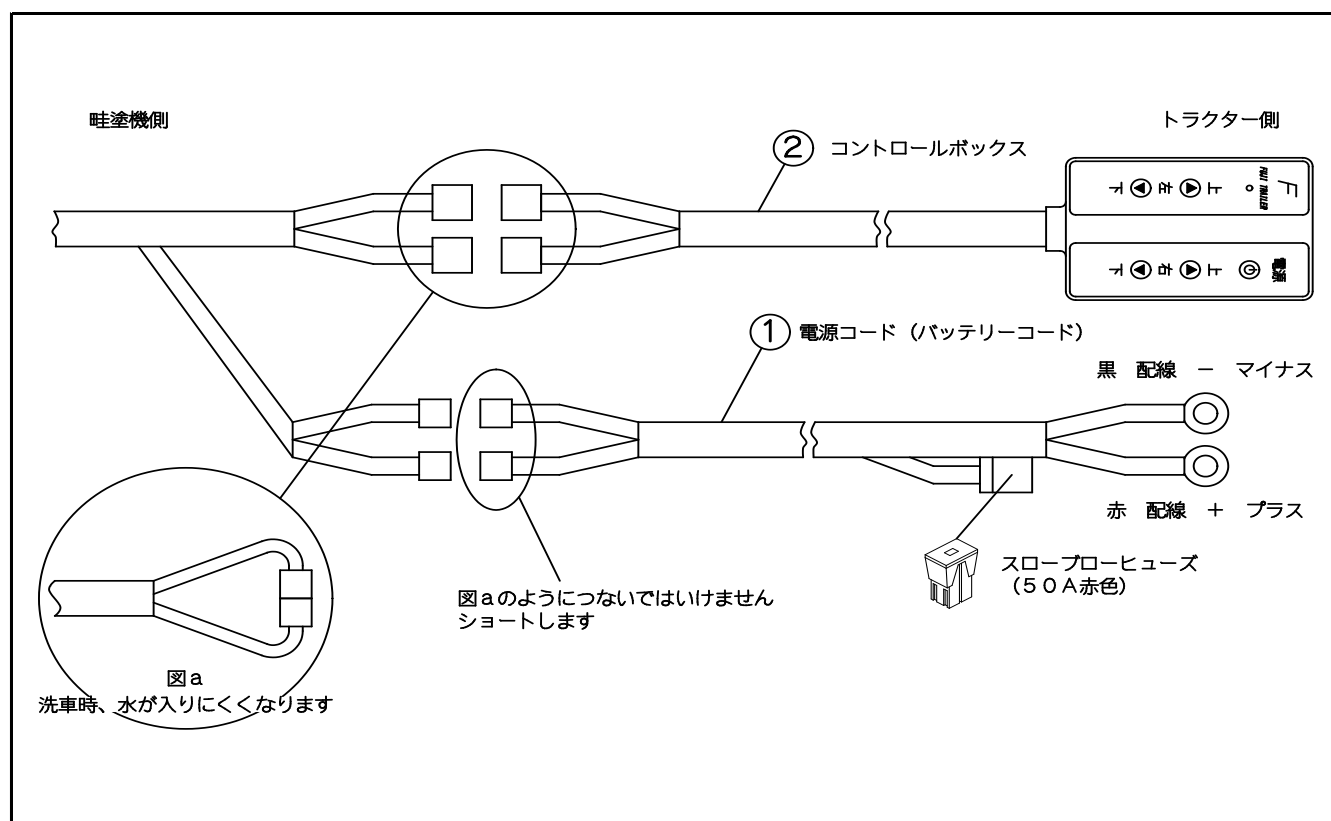


注意

コントロールボックスカプラ取付配線図

- ① 電源コード(バッテリーコード)
※ヒューズ付き(50A)
- ② コントロールボックス

- ・トラクターアクセサリからは、電源は取れません。
- ・バッテリーに配線する場合に、(+)プラス(-)マイナスを間違わないで下さい。



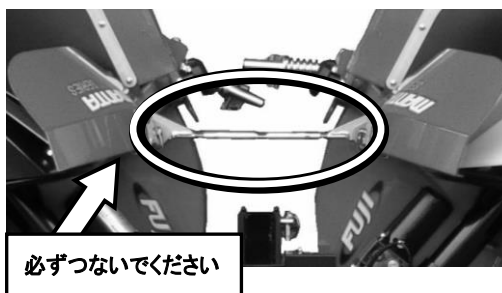
【 移動時の注意 】



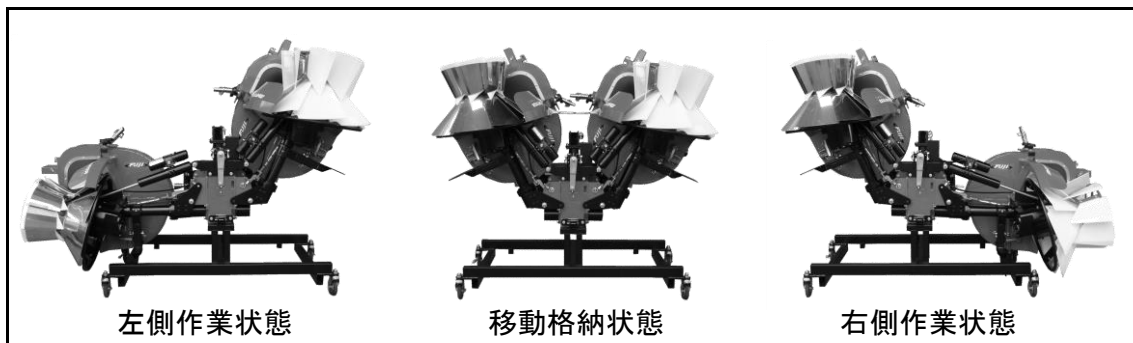
警告

- ・畦塗機取付時には公道の走行は禁止です。走行はしないでください。必ず、畦塗機を取り外して走行してください。道路運送車両法違反になります。事故を起こすおそれがあります。
- ・傾斜地での高速・急旋回は、転倒のおそれがあり大変危険です。トラクターの速度を落とし、大きく回ってください。事故を起こすおそれがあります。
- ・トラクターと畦塗機の周辺に人が入らないようにしてください。
- ・畦塗機の下にもぐったり、足をいれないでください。
- ・段差や悪路での高速走行は禁止です。作業機が破損したり、事故を起こすおそれがあります。

1. 畦塗機を移動格納状態にしてください。
2. 格納時用ターンバックルで左右ロータリーカバーをつないでください。



3. トラクターの自動水平装置を解除してください。
4. トラクターの油圧昇降レバーは、必ず上昇でロックしてください。
5. トラクターのブレーキペダルは左右連結して走行してください。



【 ほ場の条件 】

1. ほ場の条件

- 1) 畦塗機で作業する前は、耕うんしないでください。耕うんしてあると、トラクターの直進性が得られません。秋に耕うんする場合は、畦ぎわを1行程残して耕うんしてください。
- 2) 草刈りは基本的にはいりませんが、草の元気がよい場合は草刈りをおこなってください。
- 3) 畦すそきわのワラは取り除いてください。(30cmから50cm幅ほど)
- 4) 元畦の高さが30cm以下の作業が可能です。以上になると、側面のみの作業になります。

2. ほ場の水分条件

畦塗作業をおこなう上で、土の湿り具合が重要です。

- 1) ほ場の土を丸めて手の平で転がしても壊れずに、親指で軽くつつくと壊れる程度。このような条件で作業していただきますと申し分のない畦ができます。
- 2) 白く乾いてホコリがたつようなほ場では、湿りが無いので土と土がくっつかず畦が固まりません。
- 3) 水分が多くトラクターのタイヤが10cm以上沈むほ場では、畦はできません。

【 運転操作及び畦塗機作業時の調整の仕方 】



警告

- ・ トラクターと畦塗機の周辺に人が入らないようにしてください。
- ・ 畦塗機の下にもぐったり、足をいれないでください。
- ・ 畦塗機の調整をするときは、トラクターの駐車ブレーキをかけて、PTO変速レバーを中立にして、エンジンを停止してからおこなってください。
- ・ 回転部に巻き付いた草やワラを取るときは、トラクターのエンジンを停止させてから、作業をおこなってください。

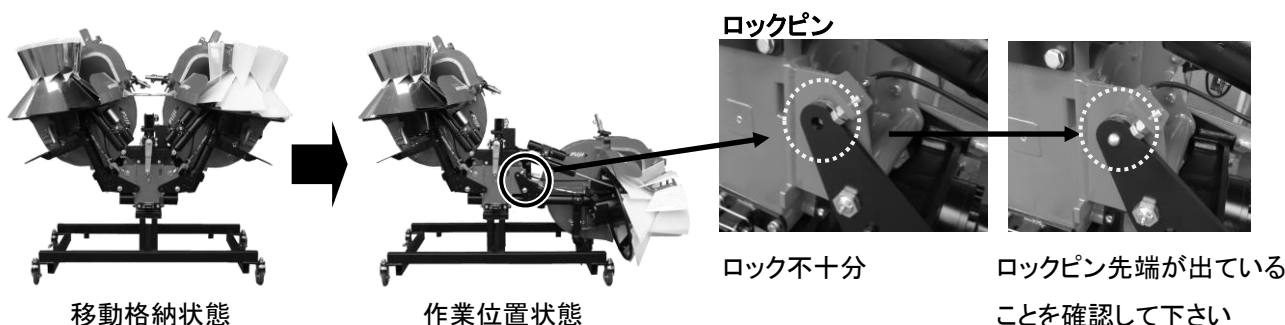
1. 畦塗り作業位置および格納位置への調整

畦塗り作業位置および格納位置への移動は、以下の手順にておこなってください。

左右の作業がありますが右作業について説明します。左側は、右側に準じておこなってください。

〔作業時〕

- 1) トラクターのPTOを切ってください。
- 2) 爪クラッチの噛合い部に異物がないことを確認してください。
- 3) 格納時用ターンバックルが外してあることを確認してください。
- 4) コントロールボックスの①「電源」ボタンを2～3秒以上押し続けると、②「電源ランプ」が点灯し運転可能になります。
- 5) ④右 作業「下」ボタンを押します。ボタンを1回押すと、30秒間作業部が下がります。停止する場合は、再度ボタンを押すと停止します。さらに1回押すと、停止した場所から30秒間動きます。
- 6) 下図の作業位置状態まで下げてください。1回押して下がりきらなかった場合、再度押ししてください。ロックピン先端が確実に出ていることを確認してください。

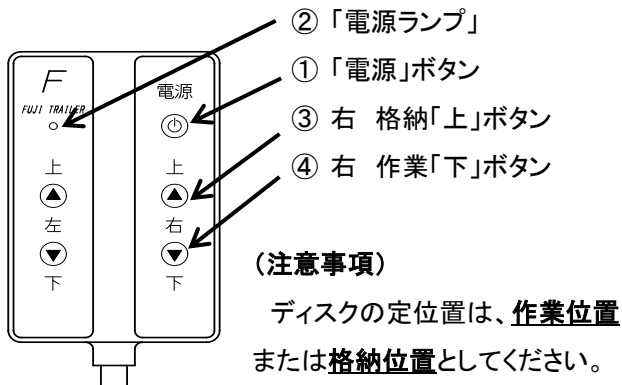


- 8) コントロールボックスの①「電源」ボタンを2～3秒以上押し続けると、②「電源ランプ」が消灯し操作を終了します。
- 9) PTOを1速アイドリング状態でゆっくり回し、ディスクの動きを見て爪クラッチがかみ合っていることを確認してください。

〔格納時〕

注意事項: ディスク等に土が大量に付着している場合は、作業をおこなう前に落としてください。

- 1) トラクターのPTOを切ってください。
- 2) コントロールボックスの①「電源」ボタンを2～3秒以上押し続けると、②「電源ランプ」が点灯し運転可能になります。
- 3) ③右 格納「上」ボタンを押します。ボタンを1回押すと、30秒間作業部が上がります。停止する場合は、再度ボタンを押すと停止します。
- 4) 上図の移動格納状態まで上げてください。1回押して上がりきらなかった場合、再度押しください。



- 5) コントロールボックスの①「電源」ボタンを2～3秒以上押し続けると、②「電源ランプ」が消灯し操作を終了します。
- 6) 移動走行する場合は、格納時用ターンバックルで左右ロータリーカバーをつないでください。

2. トラクター各部調整

	乾田時	湿田時
エンジン回転数	～2, 000rpm	～1, 500rpm
PTOレバー位置	1	1
作業速度	0. 1～0. 7km/h	0. 5～1. 2km/h

※ 速度に関しては、土質にも関係しますので目安としてください。

速すぎるのは、締まりが弱くなったり機械を引きずる感じになり、お勧めできません。

3. 畦の高さ調整

1) 畦の高さの調節は、上面ドラムの交換によりおこないます。

25cm上面ドラム 元畦が15cm～25cmの畦に使用できます。

30cm上面ドラム 元畦が20cm～30cmの畦に使用できます。

法面用上面ドラム 元畦が30cm以上の畦に使用できます。

2) 元畦が上記ドラム範囲より低い場合、畦上面が十分に締まらない事があります。

3) 上面ドラムの交換は、ピン1本でとめていますので確実にとめてください。

4. 進行方向に対しての前後・左右の水平調整

ほ場に入り、1mほど作業したら畦塗り機の姿勢を確認します。トラクターを停止させてください。運転席から降りて次のことを確認してください。畦塗り機本体が作業状態で前後、左右水平になっているか確認し、水平になるように調整してください。

・ 前後の水平の仕方

「日農工標準3点オートヒッチ」は、トラクター本機のトップリンクで調整してください。

「標準3点リンク」は、富士畦塗り機純正トップリンクで調整してください。

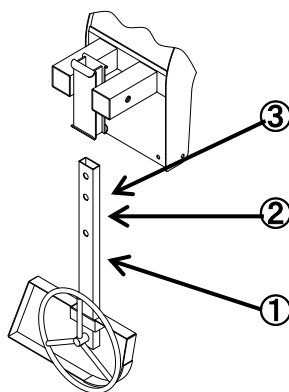
・ 左右の水平の仕方

トラクターのリフトロッドを伸縮させて、左右水平になるように調整してください。

5. サイドシャッター、サイドシャッター受け金具の調整

・ サイドシャッター

サイドシャッターは、ロータリーがはね上げた土を畦上面にためる働きをします。



作業前は、①で固定して下さい。

作業中に土がはみ出る場合は、

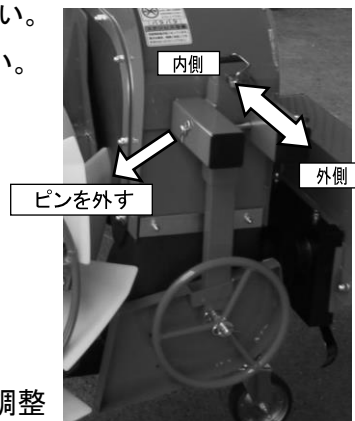
②又は、③で固定して作業して下さい。

下げすぎると畦にサイドシャッターが引っかかり破損するおそれがありますので注意して下さい。

・サイドシャッター受け金具

畦上面の幅に合わせて、内側に入れたり、外側に出したりしてください。

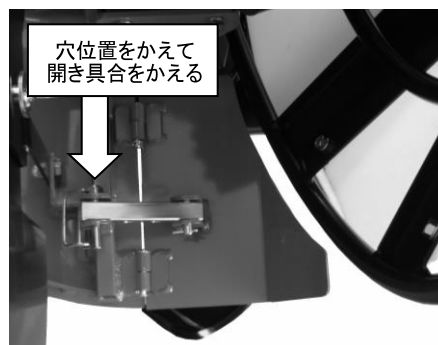
畦肩が弱い場合は、内側に入れ土が畦肩に集まるようにしてください。



サイドシャッター受け金具調整

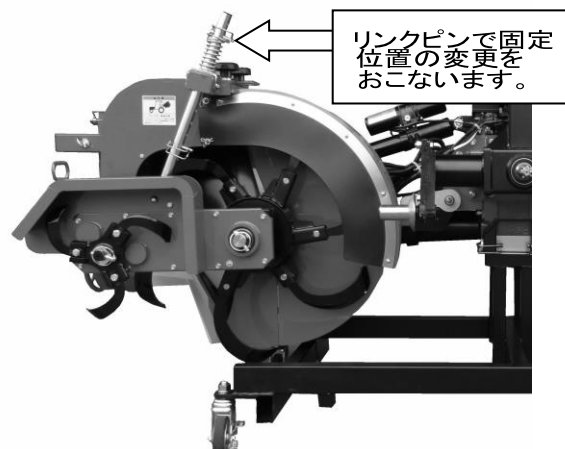
6. ガイドプレートの調整

ガイドプレートの開閉により、ホッパー内の土の量を調整できます。ホッパーに土がたまりすぎる場合は、ガイドプレートを開け、土をホッパーから逃がしてください。



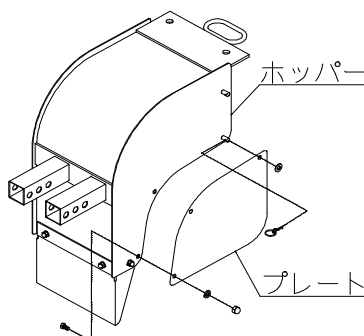
7. 畦上面削り装置の調整

- 1) 上面削りチェーンケースの爪が畦上面に1/3 程度当たるようにあわせてください。
爪を下げすぎると、**機械に負担が掛かり、チェーン切れギヤの破損につながります。**
畦の仕上がりも、元畦より低くなりすぎたり、場合によって畦上面の締まりが弱くなります。
- 2) 往復作業時の復作業では、上面を削らない方がよい場合もあります。
- 3) 草の勢いがよすぎて、十分に効果が得られない場合があります。
- 4) 作業中、石・境界杭・側溝のコンクリートにご注意ください。



8. プレートの調整

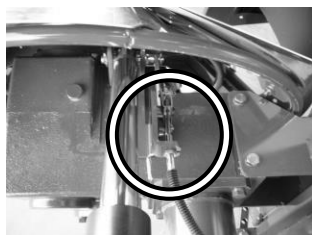
ホッパーより土が拡散する場合に、プレートを取り付けてください。
(予備箱に入っています。)
水分が多く土をこねる状態の時は、プレートを外してください。



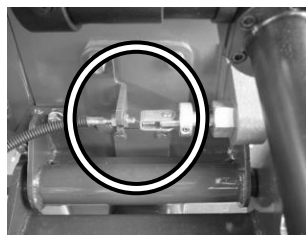
9. ワイヤーの調整

工場出荷時には調整を行っていますが、作業をおこなうとワイヤーの伸びで、ロックが掛からない、ロックが解除されないトラブルが起きるおそれがあります。調整をおこなってください。

- 1) 作業状態にして、下ロックピンが掛かった状態でアクチュエータを止めて、ワイヤーに緩みの無い状態で固定してください。自動的に10mm程度の遊びができます。



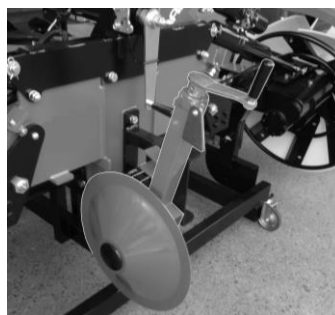
サイドギアケース部



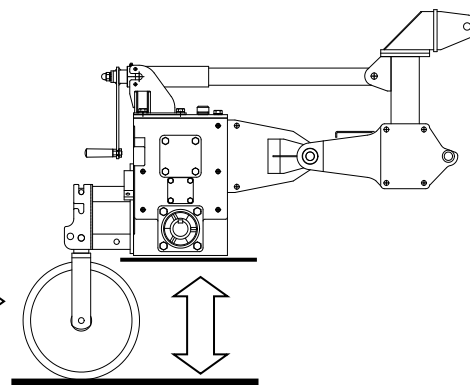
センターギアケース部

10. センター尾輪の調整(MANTA7はオプション)

- 1) 通常は、センター尾輪は上げて使用してください。耕起してあったり、雨後で直進性が悪い時は、尾輪を下げて使用してください。



- 2) 畦整形部を左右両側折りたたみ状態のとき、センター尾輪が本機の中で一番低くなります。ほ場以外で油圧を最下限まで下げると、センター尾輪が破損するおそれがあります。注意してください。

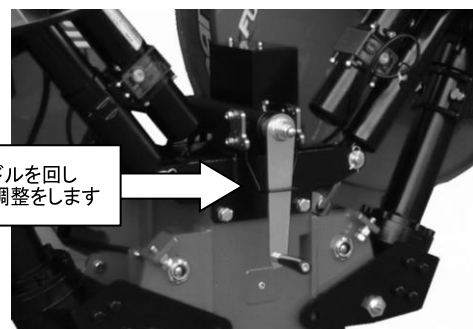


11. アジャスターの調整

アジャスターを伸縮することで、土の量を増減調整することができます。

土の量が少ないときは、アジャスターを縮めてください。
土の量が多いときは、アジャスターを伸ばしてください。

ハンドルを回し
伸縮の調整をします

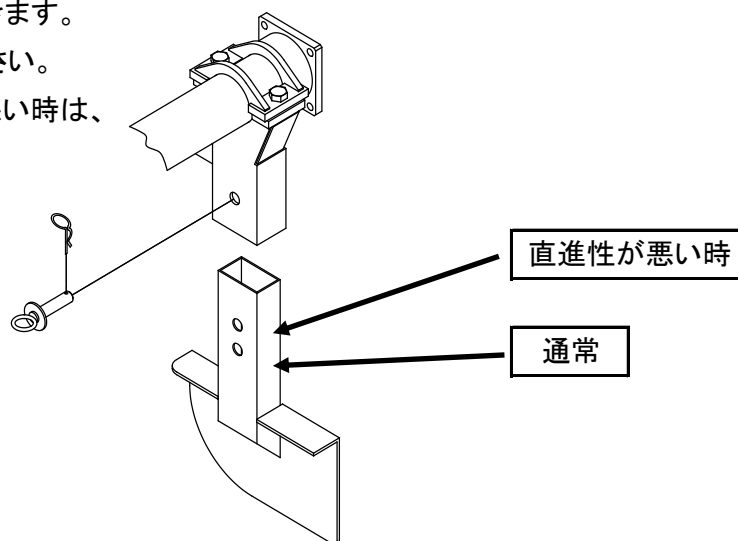


12. 安定板の調整

安定板は、上下高さを2段階調整できます。

通常は、安定板を上げて使用して下さい。

耕起してあったり、雨後で直進性が悪い時は、安定板を下げて使用して下さい。



【 作業時の注意 】

⚠ 注意

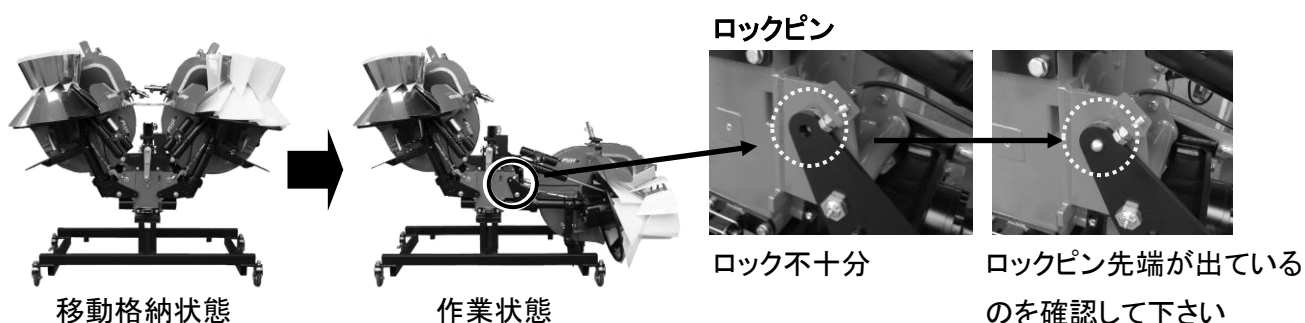
- ・ 畦塗機の改造はしないでください。純正部品以外は取付けないでください。

事故や機械の破損を招くおそれがあります。

1. 作業状態ロックの確認

⚠ 注意

- ・ 正しくロックされないと駆動部の爪クラッチが破損します。
ロックピンが確実にロックされている事を確認してください。



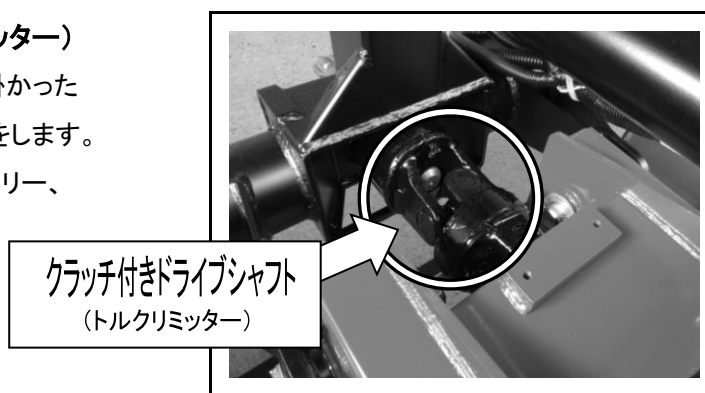
2. クラッチ付きドライブシャフト(トルクリミッター)

作業中、石など障害物で一定以上の力が掛かった場合に動力を切り、機械の損傷を防ぐ働きをします。

トルクリミッターが作動した場合には、ロータリー、畦整形部の回転が止まります。

通常はすぐに回復しますが、石などが多くひんぱんにトルクリミッターが作動する場合は、作業をやめてください。

草、ワラ、ビニールなど異物がロータリーに巻きついていると、トルクリミッターが作動します。異物を取り除いてください。



【 手入れと点検の仕方 】

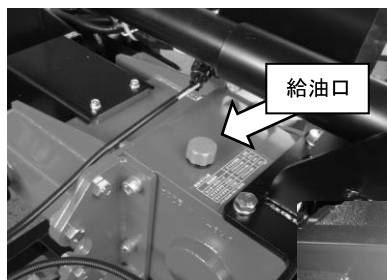
警告

- 点検・整備・修理・掃除をトラクターに取付けている状態でおこなうときは、トラクターのエンジンを停止してください。機械に巻き込まれて、事故をおこすおそれがあります。

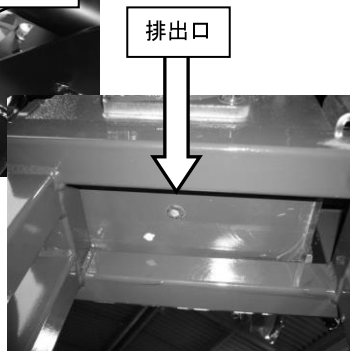
注意

- 交通の障害にならず安全で、機械が倒れたり、動いたりしない平らで安定している場所でおこなってください。
- 畦塗機を使用する前と後には点検・整備をしてください。

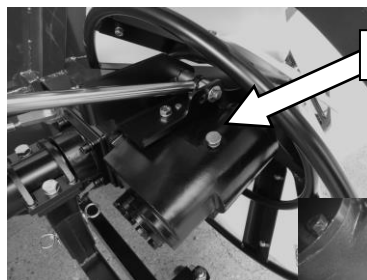
1. オイルの点検



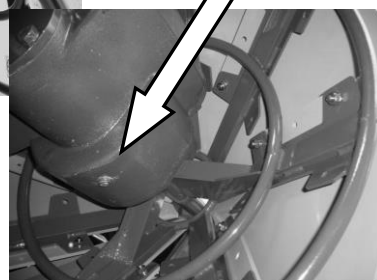
年1回点検
3年に1回交換
ギアオイル
ISO VG 150(＃90)
約6. 6リットル



センターギアケース

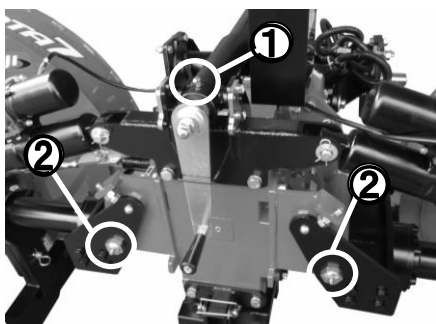


年1回点検
3年に1回交換
ギアオイル
ISO VG 150(＃90)
約3. 5リットル

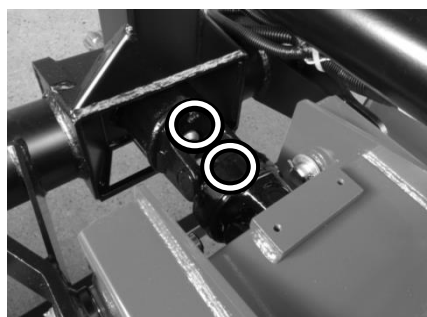


サイドギアケース

2. グリスの点検



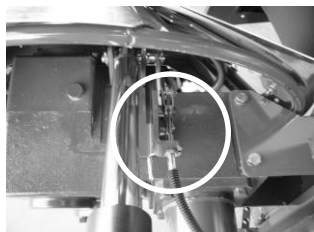
①アジャスター部分 1ヶ所
②駆動部分 4ヶ所(前後2ヶ所)



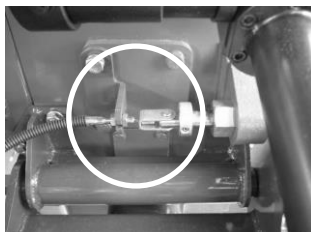
クラッチ付ドライブシャフト(トルクリミッター)部分 2ヶ所

3. スプレーグリスの点検

スプレーグリスで給油してください。粘度が強すぎるものを使用するとゴミなどが付着するおそれがあります。



サイドギアケース部



センターギアケース部

4. 水洗い

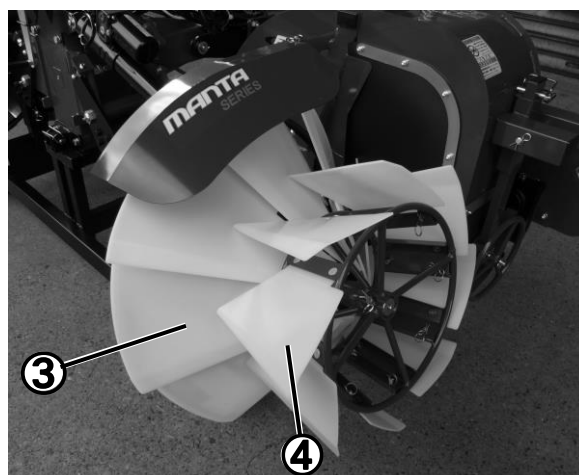
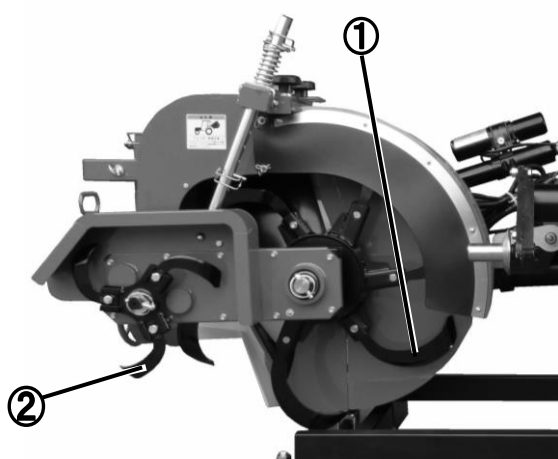
作業後は必ず、ロータリーの土(ホッパー内)をきれいに洗い落としましょう。

5. 樹脂羽根の保管

樹脂の特性を保持する為に長時間使わない時には直射日光が当たらないようにして下さい。



6. 消耗品について



- ① 爪(土上げ用)
- ② 爪(上面削り用)
- ③ 側面ディスク羽根(樹脂/ステンレス)
- ④ 上面ドラム羽根(樹脂/ステンレス)

などは消耗品です。

摩耗したら交換してください。

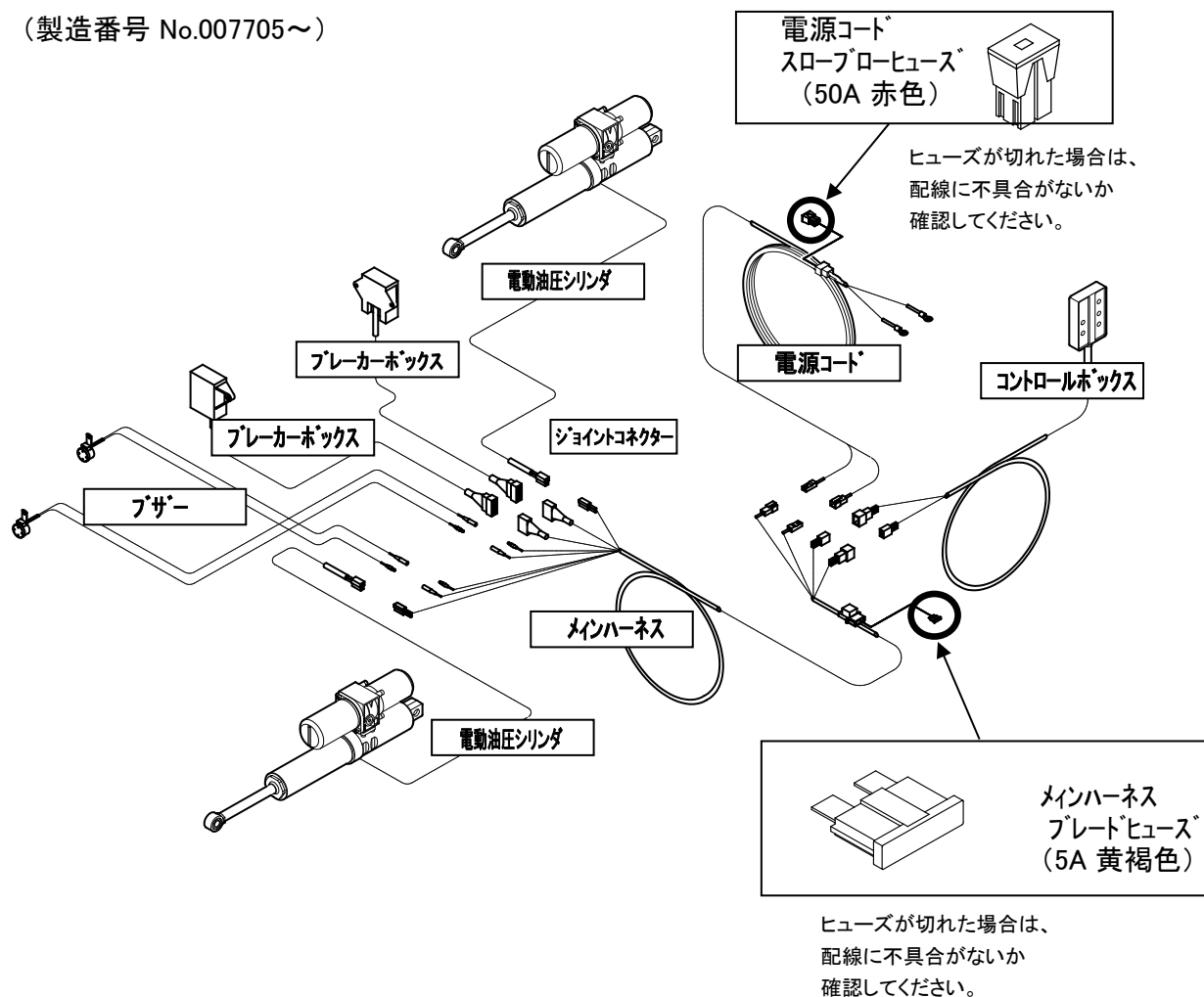
【 ワンポイントアドバイス Q&A 】

こんなときは	こう処置してください
1. 畦が固く締まらない	1) 作業速度が遅くないですか。 作業速度が速すぎると、畦は形になるのですが畦の芯まで締まりません。作業速度はトラクターの作業表示板を見て、0.1～1.2km/hにしてください。 乾き気味のときは、1速遅く、湿り気味のときは1速速くと状況に応じて対応してください。

こんなときは	こう処置してください
1. 畦が固く締まらない	2) 長草が生えてないですか。または畦ぎわに長いワラが飛散していないですか。 ・ 長草や長いワラが畦ぎわにあると、畦塗りをした畦の土と土の間に長草や長いワラが入り、サンドイッチ状態になって畦は固く締まりません。長い畦草は刈払い、畦ぎわの飛散ワラを取り除きましょう。
2. 畦上部肩が固く締まらない	1) 畦の高さに適した上面ドラムを使っていますか。 2) アジャスターの調整は適切ですか。 ・ アジャスターの調整はP. 13を参照してください。
3. 畦が広くなってしまう	1) 安定板のセット位置がほ場に合っていますか。 ・ 湿地帯のほ場で全面耕うんされていると、トラクターを元畦す所にセットしても、走行しだすと車輪はどうしても田の中へ入っていきます。秋耕しの時は走行部分だけ、耕うんをしないでおいってください。 (安定板の調整はP. 14を参照してください。) ・ メインホッパーに土がたまりすぎたときも畦が大きくなります。次項をご参照ください。
4. メインホッパー内で土がたまってトラクターが曲がる。	1) トラクター油圧を調節して、畦塗機を若干上げて、土を逃がしながら、作業をしてください。 2) ほ場が湿り過ぎていませんか。 3) ガイドプレートの調整(P. 12を参照してください。)
5. 電動油圧シリンダが動かない (電動折りたたみ装置)	1) ホッパー内に土が多くたまっていますか ・ ホッパー内に土が多くたまっていると、保護装置が働き動かなくなります。 2) 電源コード、メインハーネスのヒューズは切れていませんか 3) 配線カプラの挿入の不良はありませんか ・ 抜き差しをして確認をしてください 4) バッテリーの性能が低下していませんか ・ バッテリーの性能が低下していると動かない場合があります。バッテリーの充電、又はバッテリーの交換をしてください。

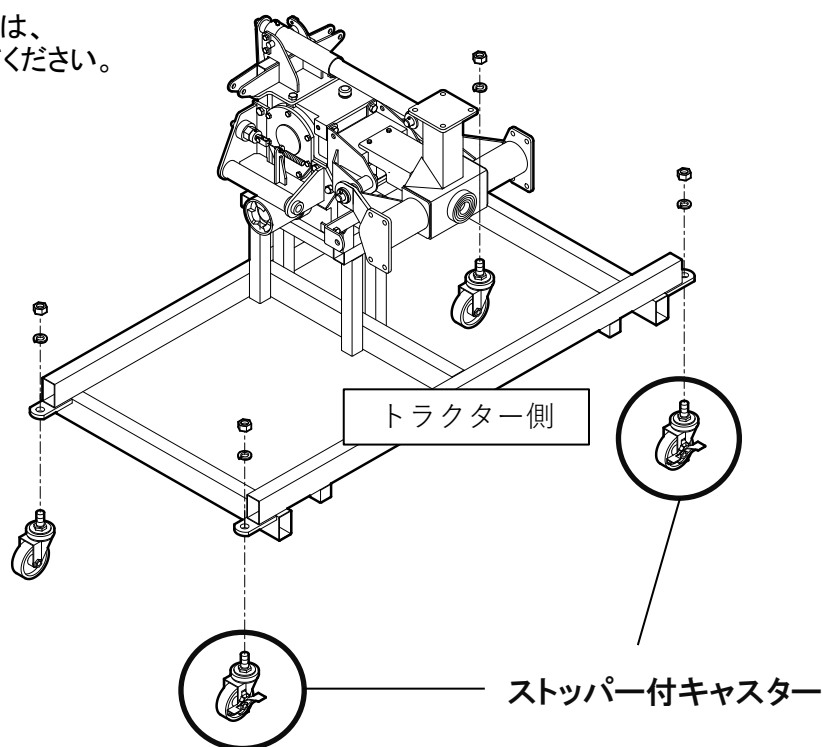
【 配線図 】

(製造番号 No.007705～)



【 キャスター取付け時の注意 】

ストッパー付キャスターは、トラクター側に取付けてください。





株式会社 富士トレーラー製作所

〒959-0310 新潟県西蒲原郡弥彦村美山6606番地

TEL(0256)94-5551(代) ・ FAX(0256)94-5555

<http://fuji-trailer.co.jp>

秋田営業所	／	〒014-0073	秋田県大仙市内小友字中沢263-4	TEL (0187)68-4511 (代) FAX (0187)68-4855
鷹巣営業所	／	〒018-3301	秋田県北秋田市綴子字佐戸岱5-21	TEL (0186)63-2384 (代) FAX (0186)63-2385
酒田営業所	／	〒998-0852	山形県酒田市こがね町2丁目1番地の10	TEL (0234)23-3791 (代) FAX (0234)23-3790
古川営業所	／	〒989-6135	宮城県大崎市古川稲葉字浦田137-2	TEL (0229)25-6536 (代) FAX (0229)25-6537
大宮営業所	／	〒331-0811	埼玉県さいたま市北区吉野町2丁目268番地3	TEL (048)652-3877 (代) FAX (048)652-0729
新潟営業所	／	〒959-0310	新潟県西蒲原郡弥彦村美山6606番地	TEL (0256)94-3141 (代) FAX (0256)94-5734